

VI 平成29年度事業の点検及び評価の概要

平成29年度事業計画の達成状況について、点検・評価の結果は次のとおり。

No.	取組	行動目標	評価指標 (H30目標)	H29の状況 (H28)	達成度 (H29/目標)
1	すべての県民への図書館サービスの提供	(1) どこでも、いつでも、誰でも、使える図書館 (2) 地域の文化・産業を支える図書館 (3) 仕事や生活に役立つ図書館 (4) 若い人に読書の楽しさを伝え知の力を育てる図書館 (5) 生涯学習を支える図書館	●利用登録者数 52,000人 ●遠隔地返却の利用数 3,200冊・点	42,867人 (45,090) 2,613冊・点 (2,567)	82.4% 81.7%
2	市町村立図書館等への支援	(1) 資料の提供 (2) 除籍される資料の保存と「あいちラストワン・プロジェクト」の推進 (3) 運営の助言 (4) 人材の育成	●あいちラストワン・プロジェクト 参加市町村数 48市町村	47市町村 (46)	97.9%
3	サービスを広げる図書館ネットワークの形成	(1) 「資料搬送・情報」のネットワーク (2) 「にぎわい」のネットワーク (3) 「人」のネットワーク (4) 「危機対応」のネットワーク	●県内及び東海北陸地区の協力貸出・相互貸借数 合わせて 7万冊・点	65,970冊・点 (64,527)	94.2%
4	図書館活動を支える県図書館の体制の整備	(1) 拠点図書館としての資料の収集と保存 (2) 職員の育成と効率的な組織づくり (3) 新たな図書館サービスの調査研究・開発 (4) 利便性の高い施設づくり (5) 効果的な広報活動	●インターネットアクセス数 1,583,000回	1,128,996回 (1,183,894)	71.3%

[概要]

＜評価指標 1＞・利用登録者数は、近年来館者数とともに連続して減少傾向にあり、平成29年度も前年度より2,223人減少した。

・遠隔地返却の自治体に在住する利用登録者は、平成29年度末現在2,195人で昨年度より189人増加しており、遠隔地返却数も46冊増加した。

＜2＞・平成29年度に稲沢市が「あいちラストワン・プロジェクト」に加わり、図書館設置自治体48のうち47の自治体が同プロジェクトに参加。
(未参加：豊川市)

＜3＞・県内及び東海北陸地区の協力貸出・相互貸借の冊・点数は、昨年度から1,443冊・点増加しており、堅調に推移している。

＜4＞・インターネットアクセス数（トップページビュー数）は、ここ数年減少が続いている一方、蔵書検索ページアクセス数は195万回（H28）、188万回（H29）と推移している。これは、トップページを経由せず、蔵書検索ページを直接参照する利用者が多いと思われる。

○評価指標の目標値に対して、「あいちラストワン・プロジェクト」参加市町村数、県内及び東海北陸地区への協力貸出・相互貸借冊・点数が90%以上達成している一方、利用登録者数、インターネットアクセス数は減少傾向が続いている。

【評価区分】

A:計画を大きく上回った

B:計画をやや上回った

C:計画通り

D:計画をやや下回った

E:計画を大きく下回った

平成29年度事業計画の評価 (41項目)	(参考) 平成28年度
事業項目20のうち B評価：4項目 C評価：14項目 D評価：2項目	B評価：2項目 C評価：16項目 D評価：2項目
事業項目5のうち B評価：2項目 C評価：2項目 D評価：1項目	B評価：4項目 D評価：1項目
事業項目4のうち B評価：2項目 C評価：2項目	C評価：4項目
事業項目12のうち B評価：3項目 C評価：8項目 D評価：1項目	C評価：12項目
A：0、B：11、C：26 D：4、E：0	A：0、B：2、C：36 D：3、E：0

＜事業の評価＞

- 41項目中、B評価が11、C評価が26、D評価が4項目であった。昨年度に比し、B評価については「市町村立図書館との連携を深めます」「資料の配置や表示をより利用しやすいものにします」などの9項目で増加。当該項目に関する事業が堅調に進捗したと言える。
- B評価が増加した一方で、D評価が1増加した。D評価に該当する事業項目は「県図書館での障害者、高齢者、外国人などへのサービスを拡充します」「資料や情報を利用するための力の向上をお手伝いします」「図書館未設置町村の公民館図書室への支援を充実するとともに、自治体の理解を促します」「サービスの水準を高めるのに必要な機能の整備に努めます」の4項目である。
- 平成30年度については、D評価となった事業項目の進捗を図り、取組みの達成度を高めたい。

Ⅶ 平成29年度事業の点検・評価及び平成30年度事業計画

1 すべての県民への図書館サービスの提供			
項目		運営方針	平成29年度 事業計画
(1) どこでも、 いつでも、 誰でも使える 図書館	①	協力貸出を申し込んでから届くまでの日数を短縮します	H28年度に試行実施した9館の週2便を定期化。利用状況や各館の意向を調査し、対象館の増加などについて検討
	②	個人貸出を行っていなかった、地域資料を貸出できるようにします	H28年度の決定に基づき、地域資料のうち貸出希望の多い資料は同一本を他部門で用意し貸出を実施
	③	雑誌を協力貸出の対象とし、市町村立図書館で利用できるようにします	次期図書館システム（H31年3月稼働）構築に向け、仕様を決定
	④	遠隔地返却制度の対象範囲の拡大を図ります	新たに3市町を対象地に追加。対象3図書館の利用状況を踏まえ搬送便の週2便化の検討
	⑤	デジタル資料を積極的に導入します	a 「貴重和本デジタルライブラリー」に順次新しいタイトルを追加 b ものづくり文化関係の資料を含む地域の産業関係資料についてのデジタル情報の整備を実施
	⑥	県図書館での障害者、高齢者、外国人などへのサービスを拡充します	a テキストデージー※1作成ソフトの扱いの習熟に努めるとともに、製作方針、協力員への報酬等について、他の先進館の事例を元に検討 b 新たな視覚障害者サービスや広報方法の検討
	⑦	市町村立図書館との連携を深めます	a 県教育委員会や関係団体との連携による研修事業を実施 b 市町村立図書館訪問や地区別の図書館関係団体の会議等への参加
(2) 地域の文化・ 産業を支える 図書館	⑧	地域資料を重点的に収集します（重点分野を年度ごとに決めて収集します）	a 地域の文学に関する資料を重点的に収集 b 愛知のものづくり文化関係の資料を中心に地域の産業に関する資料の収集
	⑨	ホームページで公開している「貴重和本デジタルライブラリー」を拡充します	「貴重和本デジタルライブラリー」に順次新しいタイトルを追加（⑤再掲）
	⑩	地域資料のデジタル化を推進します	H28年度購入した地域の産業関係資料及び今年度収集するものづくり文化関係の資料を含む地域の産業に関する資料についてデジタル情報の整備を実施
	⑪	ホームページ内に「愛知県関係資料ポータル」を新設します	ポータルサイト内の連携機関リストの拡大、データ・リンク等のメンテナンスと情報の追加を実施
	⑫	産業分野に関連する資料を重点的に収集します	a ものづくりを担う企業や法人についての情報収集に資するため、社史・団体史の収集 b ものづくり文化関係の資料を中心に地域の産業に関する資料の収集（⑧再掲）

【評価区分】 A:計画を大きく上回った B:計画をやや上回った C:計画通り D:計画をやや下回った E:計画を大きく下回った				
平成29年度 達成状況		評価	平成30年度 事業計画	
週2便の9館については運用を定期化。1月に市町村立図書館に定期資料搬送便に係るアンケートを実施し、週1便の図書館からは「適当（な回数）である」との回答を得た。		C	週2便の対象館拡大など搬送体制の強化について検討	
地域資料のうち貸出希望の多い「藤井聡太 名人をこす少年」など11冊の資料について、他部門で同一本を用意し貸出を実施した。		C	地域資料のうち貸出希望の多い資料は同一本を他部門で用意し貸出を実施（継続実施）	
次期システムの更新が延期になったが、雑誌の協力貸出の実施に向けて、市町村立図書館の意向調査を行い、試行の準備を行った。		D	4月から試行を開始した雑誌の協力貸出を検証し、問題点を改善	
阿久比町、豊田市はH29年度から実施。安城市も、H30年度には対応可能との返事を得た。搬送便について豊田市とは既に週2便化の運用を実施しており、阿久比町からは現在では週1便の搬送で適当である旨の回答を得た。（①再掲）		C	a 新たに安城市を対象地に追加 b 対象範囲（県図書館から25km圏外）の拡大の可能性を検討	
a ホームページ「愛知県図書館デジタルアーカイブ」内の「貴重和本デジタルライブラリー」に新たに『東海道名所図会』始め14タイトルを追加し、計176タイトルとなった。 b 愛知のものづくり文化を中心に古書48点を購入して、デジタル化対象資料の収集に努めた。		C	本館所蔵の愛知に関連した貴重和本を順次調査し、「貴重和本デジタルライブラリー」にタイトルを追加（継続実施）	
a 先進館の見学及び聞き取りを行った。作成ソフトの実務的な取扱いについて学び、目録等テキストデータの音声デジタイ化に有効であることが確認できた。 b 県立名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンターを訪問し、当館の視覚障害者サービスについてのパンフレット配布の協力を依頼した。名古屋ライトハウスに当館のイベント情報の利用者への提供を依頼するなど広報の拡大に努めた。 なお、障害者サービスについての事業は進捗したが、高齢者、外国人に対するサービスの拡充は十分ではなかった。		D	a 視覚障害者サービスを必要とする方へ効果的なPRを実施するため先進館の取組みを調査する他、高齢者に対する健康講座等を開催。 b 外国人県民等への学習支援を県教育委員会と連携して実施	
a 図書館研修実施要綱に基づく館内研修を市町村職員にも開放。県教育委員会職員が講師の研修を実施した。 b 24市町村立図書館に延べ80名の職員を図書館訪問や会議等で派遣した。		B	図書館研修実施要綱に基づく館内研修の市町村職員へ開放（継続実施）	
『藤井達吉研究資料集成』始め地域の文学及びものづくり文化や地域の産業に関する資料を中心に493冊を購入した。		C	地域に関する資料を重点的に収集、特に愛知のものづくり文化関係の資料を中心に収集	
「貴重和本デジタルライブラリー」に新たに『東海道名所図会』始め14タイトルを追加し、計176タイトルとなった。（⑤再掲）		C	「貴重和本デジタルライブラリー」に、本館所蔵の愛知に関連した貴重和本を順次調査して、タイトルを追加（継続実施）（⑤再掲）	
a 愛知のものづくり文化を中心に古書48点を購入して、デジタル化対象資料の収集に努めた。（⑤再掲） b 地域資料のデジタル化について、自館でのデジタル写真撮影及び「貴重和本デジタルライブラリー」への掲載を試行した。		C	a 愛知のものづくり文化に関する資料を中心に新規に資料を収集して、デジタル化対象資料のデジタル情報の整備を実施（継続実施） b 自館の地域資料をデジタル化するためデジタル撮影及びデジタルアーカイブへの掲載を継続	
ポータルサイト内の連携機関リストの拡大、データ・リンク等のメンテナンスと情報の追加を実施		C	ポータルサイト内の連携機関リストを増やす（県史編纂室、博物館等）、データ・リンク等のメンテナンスと情報の追加を実施（継続実施）	
a 社史・団体史237冊を収集した。 b 地域の文学及びものづくり文化や地域の産業に関する資料を中心に493冊を購入した。（⑧再掲）		B	a 全国の社史・団体史（特に新しく刊行されたもの）を収集 b 「ものづくり」を担う個人や企業に有用な産業・工学分野及び地域の産業事情・産業史に関する資料の収集	

※1 テキストデジタイ：デジタイ（DAISY）は「Digital Accessible Information System」の略で、誰もが使えるアクセシブルなデジタル資料のこと。国際標準規格になっている。テキストデジタイとは テキスト（文字）だけのデジタイ。合成音声ソフトで読み上げたり、大きく表示したりして利用できる。

1 すべての県民への図書館サービスの提供			
運営方針		平成29年度 事業計画	
項目			
館仕事(3)や生活に役立つ図書	⑬	情報の入手に有効なオンラインデータベースを積極的に導入します	有用なオンラインDBの調査、情報収集を継続するとともに、必要なDBの導入を検討
	⑭	資料の配置や表示をより利用しやすいものにします	1階のクリエイティブ・ゾーン(仮称) ※6開設に向け、資料の配置や利用についてのサイン掲示を実施
若い人(4)に読書の楽しさを伝え、知の力を育てる図書館	⑮	若年層に向けた新しいイベントを開催します	a 県立三谷水産高等学校、県水産試験場と連携し「ウナギ」についての講演会等を実施 b NPOくらしとバイオプラザ21等と連携してサイエンス・カフェを試行
	⑯	インターネットを利用した若年層向けの情報発信を充実します	「第6回てこぼん大賞」※9のホームページ投票フォームからの投票の受け付け継続と、PR活動の継続
	⑰	高等学校など関係機関との連携や支援を実施します	本県で効果的に実施可能な学校図書館支援策について、教育委員会と連携し、他県の調査をするなど検討を実施
(5)生涯学習を支える図書館	⑱	資料や情報を利用するための力の上のお手伝いをします	子ども向け図書館講座、データベース利用講座等利用者向けに図書館資料に関する講座を開催
	⑲	ボランティア活動の機会を提供するとともに、ボランティアとの協働を充実します	a 乳幼児向けおはなし会の定期開催に向けて、新規サポーターを募集 b 大人向けおはなし会の開催
	⑳	資料や情報を媒介としたコミュニケーションの場の提供に努めます	a 他機関との連携を前提としたイベント等の実施に向け準備を実施 b aを実施するためのスペースとしてクリエイティブ・ゾーン(仮称)の整備

※2 EBSCOディスカバリーサービス：OPAC（オンライン蔵書目録）、電子ジャーナル、データベース等を一括検索可能なサービス
※3 ジャパンナレッジ：国内外の出版各社の辞書・事典の収録情報データベース
※4 医中誌Web：国内の医学、歯学、薬学及びその周辺分野の文献の抄録・索引データベース
※5 ブリタニカオンライン：ブリタニカ社発行の百科事典等の収録情報データベース

2 市町村立図書館等への支援			
運営方針		平成29年度 事業計画	
項目			
供資料(1)の提供	㉑	県内の図書館の所蔵資料に関する情報を迅速・的確に入手できるようにシステム等を整備します	次期図書館電算システムに向けて、現行システムと同水準以上の機能を確保するための要件を整理し仕様を確定
古い資料(2)の保存とデジタル化の推進	㉒	県内最後の1冊となる資料を保存します	未参加2市への参加の呼びかけ継続とラストワン資料の受入・整理の継続

平成29年度 達成状況	評価	平成30年度 事業計画
EBSCOディスカバリーサービス※2のトライアルを実施（H29.9-H30.3）し、ジャパンナレッジ※3、医中誌Web※4、ブリタニカオンライン※5それぞれの内容・機能等を検証した結果、図書館業務に有用であり、導入候補として適当なDBであると判断した。	C	a 既存DBや予算配分の見直しなどにより新規DB導入の検討 b 新規ジャンル（ものづくり等重点収集分野）のオンラインDBの有用性の検証
愛知県図書館掲示・サイン要領を策定。Yotteko（クリエイティブ・ゾーンの愛称）を始め全館の掲示・サインについて共通ルールに基づいたサイン掲示を実施した。	B	掲示・サイン要領に基づき、サイン表示について必要な見直しを実施
a 県立三谷水産高校、県水産試験場と連携し企画展示「ウナギ：ひつまぶしの未来を考える」を実施した。資料の展示を行った他、三谷水産高校生徒の研究成果発表及び県水産試験場場長の講演会、またブックトーク&朗読会、ひでっち・まんてんくんと聞くおはなし会を実施した。 b NPOくらしとバイオプラザ21と連携してサイエンス・カフェ（バイオ・カフェ）を2回実施した。	B	スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール※7やスーパー・サイエンス・ハイスクール※8など特色ある活動に取組んでいる県立学校を紹介する企画を実施
「第6回てこぼん大賞」のホームページ投票フォームからの投票の受け付け、及び近隣の学校、市町村立図書館等へのチラシの配布などPR活動を継続実施した。また、愛知県図書館ホームページ内に、県内図書館の中高生向けコーナーを紹介する「ティーンズリンク」を開設し、44館の参加を得た。	C	イベント（てこぼん大賞など）についてホームページからの参加やPRを継続。県内図書館の中高生向けコーナー紹介ページ「ティーンズリンク」参加館の拡大
9月に県立学校及び市町村立図書館に、県立学校への協力貸出を始めとする学校支援に関するアンケートを県教育委員会と連携して実施し、連携可能な学校と図書館へヒアリングを行った（8校、4図書館）。2月以降、2高校と2図書館と連携して地元の図書館を経由した協力貸出を行った。	B	地元の図書館を経由した県立学校への協力貸出について拡大。また、県立学校と連携して学校図書館での展示やブックトークなどを実施
小学4年生から6年生を対象に、「天気」をテーマに図書館の上手な使い方や、事典・図鑑などレファレンスツールの調べ方の子ども向け図書館講座を開催した。 一方、商用データベース等に関する講座等一般向け図書館資料利用講座は開催できなかった。	D	a データベース等に関する講座等一般向け図書館資料利用講座を開催 b パスファインダー（調べ方ガイド）について所要の改訂を実施するとともに、新規テーマを作成
a 10月に新規サポーターの募集を開始し、定員15名に対し27名の応募があり、抽選により15名がサポーター養成講座を受講し、うち14名が図書館サポーターとして登録した。 b 民話・昔話のストーリーテリング、直木賞受賞作やショートショート・絵本の朗読などを内容にした「大人のためのお話し会」をAVホールで2回実施した。	C	あかちゃん向けおはなし会を4月から毎月第2・第4水曜日午前に定期開催し、おはなし会サポーターのレベルアップのため年1回勉強会を開催
a 博物館明治村、県健康福祉部等と協力し、30年度のイベントの準備を完了した。 b セミナーやワークショップ等ができるレクチャーコーナーをクリエイティブ・ゾーン（愛称：Yotteko（ヨッテコ））に整備した。	C	Yottekoを中心に、調べ学習やワークショップの実施に必要な場や資料を整備

※6 クリエイティブ・ゾーン：企画展示、イベント、ワークショップ、集団学習などに提供する場

※7 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール：文部科学省が、専門的職業人を育成するため、先進的な取組を行う専門高校を指定して研究開発を行う事業。SPH。

※8 スーパー・サイエンス・ハイスクール：科学技術系人材の育成のため、文部科学省が理数教育を重点的に行う高校を指定する事業。SSH。

※9 てこぼん：「ティーンズコーナー ポイントGet大作戦」の略。おすすめ本のPOPを書く、しおりやグッズがもらえる。年に1回、投票により大賞を決定。

平成29年度 達成状況	評価	平成30年度 事業計画
次期システムの要件を整理し、主な仕様を固めた上でシステム更新の予算要求を行ったが、現在のシステムのリースが1年延長になった。	C	次期図書館電算システムの更新に向け、情報環境の変化への対応を踏まえ、仕様の必要な修正を実施
1月に稲沢市があいちラストワン・プロジェクトに参加し、図書館設置自治体のうち未参加自治体は1（豊川市）となった。ラストワン資料については1,244冊県図書館へ移管希望があり、うち1,064冊に搬入を許可し、順次移管した。	C	未参加の図書館設置自治体（豊川市）への参加の働きかけの継続とラストワン資料の受入・整理の継続

2 市町村立図書館等への支援			
運営方針			平成29年度 事業計画
項目			
運 営 の 助 言 (3)	②③	県図書館へのニーズを把握するため、職員による市町村立図書館訪問を実施します	市町村の中央図書館の1/3以上を計画的な訪問を実施
	②④	図書館未設置町村の公民館図書室への支援を充実するとともに、自治体の理解を促します	公民館図書室の行う読書活動に関し、その推進と自治体の理解を促すために訪問を実施
人 材 の 育 成 (4)	②⑤	市町村立図書館の人材育成を支援します	a 東海北陸地区公共図書館協議会と共催で東海北陸地区公共図書館研究集会を開催 b H30年度開催予定の文科省の東海・北陸地区図書館地区別研修のプログラム等を策定

3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成			
運営方針			平成29年度 事業計画
項目			
ワ ー ク の 送 り 受 け （ ① ） 「 ネ ッ ト ワ ー ク の 資 料 情 報 の 搬 入 搬 出 」	②⑥	効率的な資料搬送ネットワークにより相互貸借体制を維持・発展させます	東海・北陸地区の定期便の恒常的な運行を引き続き実施
ネ ッ ト ワ ー ク の 活 動 の 充 実 （ ② ） 「 ネ ッ ト ワ ー ク の 活 動 の 充 実 」	②⑦	県内図書館等と連携したイベントの充実を図ります	a 県内公立図書館連携イベントを開催し、共同での広報を実施 b 新たな図書館活動の実施に向けた図書館フォーラムを開催
ネ ッ ト ワ ー ク の 人 的 な 連 携 （ ③ ） 「 ネ ッ ト ワ ー ク の 人 的 な 連 携 」	②⑧	図書館の関連機関との人的な連携を深めていきます	a 他機関との連携を前提としたイベント等の実施に向け準備を実施 b 愛知のものづくり等を中心として資料収集基準等の改正に向け有識者の意見を聴取
ネ ッ ト ワ ー ク の 機 能 の 充 実 （ ④ ） 「 ネ ッ ト ワ ー ク の 機 能 の 充 実 」	②⑨	県内外の図書館や図書館関係団体等との連絡調整に努めます	a 東海北陸地区都道府県立・指定都市立館長会会長館として館長会議及び東海北陸地区公共図書館研究集会を開催 b H30年度開催予定の文科省の東海・北陸地区図書館地区別研修のプログラム等の策定（②⑤b再掲）

4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備			
運営方針			平成29年度 事業計画
項目			
（ ① ） 拠 点 図 書 館 と し て の 資 料 の 収 集 と 保 存	③⑩	資料収集計画を策定し、市町村立図書館では購入しにくい資料などを計画的に収集します	特徴的なコレクション等の構築に向け、資料収集方針等の規程を改正
	③⑪	デジタルで利用可能な資料への対応を図ります	a ものづくり文化関係の資料を含む地域の産業関係資料についてのデジタル情報の整備を実施（⑤再掲） b 企業、産業経済団体等が所蔵する歴史的産業関係資料のデジタルアーカイブを検討
	③⑫	資料の補修の方針を策定し、計画的に実施します	策定した資料補修計画に従い、必要な補修を実施

平成29年度		
達成状況	評価	平成30年度事業計画 事業計画
20館（全47館）の市町村中央図書館への訪問を実施した。	B	市町村の中央図書館の1/3以上への計画的な訪問を実施（継続実施）
3月に開催した貸出文庫担当者会議に出席した南知多町公民館関係者と意見交換・要望聴取をし、その他の公民館図書室等と貸出文庫の送付を通じて意見聴取を実施したが、自治体訪問はできなかった。	D	公民館図書室の行う読書活動に関し、その推進と自治体の理解を促すために訪問を実施（継続実施）
a 10月に東海北陸地区公共図書館研究集会を名古屋大学防災館と当館を会場に実施した。 b 図書館地区別研修（東海・北陸）のプログラム等事業計画を策定し、県教育委員会に提出した。	B	a 市町村立図書館の職員に対し、引き続き参加型手法を導入し、内容を充実させた研修を実施 b 図書館地区別研修（東海・北陸）を開催

平成29年度		
達成状況	評価	平成30年度 事業計画
東海・北陸地区の定期資料搬送便の恒常的な運行を引き続き実施した。東海・北陸地区の図書館への協力貸出及び相互貸借冊（点）数は、前年度比8.4%増の4,434冊（点）であった。	B	東海・北陸地区の定期便の恒常的な運行を引き続き実施（継続実施）
a 豊橋市図書館、田原市図書館と連携して「二度目の旅は図書館から～魅力対決!豊橋VS田原 in 県図書～」を実施した。 b 1階エントランス、Yotteko(ヨッテコ)のリニューアル記念イベントとして、NP0くらしとパイオプラザ21と連携してパイオ・カフェを、中京テレビと連携しラップコンサート「あなたの“愛”をラップで伝えてみよう!」を開催した。	B	a 東三河の公共図書館と連携し、次の「二度目の旅は図書館」を企画、実施 b 「明治150年」に関する企画展示を博物館明治村と、健康講座を県健康福祉部と連携して実施 他機関や団体等と連携しYottekoにおいてカフェ形式の講演会やワークショップを実施（年4回以上）
a イベントの実施に向け、博物館明治村、県健康福祉部等との人的連携に努めた。 b 図書館専門委員会委員へ、収集方針改正案について意見聴取した。	C	a 「明治150年」や健康講座等イベントの実施において他機関や県各部署等との人的交流・連携を拡大 b 県内の社会教育関係者の研修等に参加し、人的交流・連携を拡大
a 東海北陸地区都道府県立・指定都市立館長会会長館として館長会議を8月に、「災害と図書館」をテーマに東海・北陸地区公共図書館研究集会を10月に実施した。（㊟a再掲） b 図書館地区別研修（東海・北陸）のプログラム等事業計画を策定し、県教育委員会に提出した。（㊟b再掲）	C	防災・減災対策に努めるとともに、天災・人災等「危機管理」に関する研修や講演会を実施し、県内図書館等と問題意識を共有化

平成29年度		
達成状況	評価	平成30年度 事業計画
市町村立図書館に対してアンケート調査を実施し、ニーズの把握を行った上で、有識者の意見も聞きながら重点分野の選定を行い、資料収集方針を改正した。	C	改正した資料収集方針に基づき、重点分野を中心に資料を収集
a 「貴重和本デジタルライブラリー」に新たに『東海道名所図会』始め14タイトルを追加し、計177タイトルとなった。（㊟再掲） 地域資料のデジタル化について、自館でのデジタル写真撮影及びホームページ「愛知県図書館デジタルアーカイブ」への掲載を試行。（㊟再掲） b 東京大学大学院松原宏教授、愛知県立大学中島茂教授他が進める科学研究費助成事業に申請している事業「産業技術の歴史と地理から展望する新産業地域学（新学術領域研究(研究領域提案型)）」に協力し、その枠組みの中で県図書館が担いする役割について研究した。	C	a 「貴重和本デジタルライブラリー」に、本館所蔵の愛知に関連した貴重和本を順次調査して、タイトルを追加（継続実施）（㊟再掲） 自館の地域資料をデジタル化するためデジタル撮影及びデジタルアーカイブへの掲載を継続（㊟再掲） b 既設予算の配分の見直しなども含めた新規DB導入方法の検討（㊟再掲） c 新規ジャンル（ものづくり等重点収集分野）のオンラインDBの有用性の検証（㊟再掲） d 「産業技術の歴史と地理から展望する新産業地域学（新学術領域研究(研究領域提案型)）」への協力及びこの研究の枠組みの中で県図書館が担いする役割についての研究を継続。
策定した資料補修計画に従い、必要な補修を実施（約600冊）した。	C	資料補修計画に従い、必要な補修を実施し、職員間の技能の継承を実施（継続実施）

4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備			
運営方針		平成29年度 事業計画	
項目			
(2) 職員の育成と効率的な組織づくり	③③	人材の育成に努めスキルアップを図ります	a 集客、企画を担う人材を育てるため、平成30年度から実施する新しい研修プログラムを策定 b aの研修プログラムに基づき研修を試行
	③④	組織運営の点検・見直しを行い、改善を図ります	a 4つの集客プロジェクトチームを設置し、他機関との連携を前提としたイベント、当館ならではの特徴的コレクションの構築等について準備を実施 b 企画を効果的にPRする広報チームを設置し、広報計画を策定 c 人材育成チームを設置し、魅力あるイベントが継続的に実施可能となる人材を育成するプログラムを策定
新たな図書館サービスの調査・開発 (3)	③⑤	新しい図書館サービスを調査研究し、先進的なサービスを試行します	a 地域情報のデジタルアーカイブ化についてH30年度以降の整備計画を検討 b クリエイティブ・ゾーン（仮称）の整備 c 他機関と連携してイベントを開催
(4) 利便性の高い施設づくり	③⑥	居心地良く快適に利用できるよう、施設環境を整備します	a クリエイティブ・ゾーン（仮称）整備事業として利用者用机・椅子・書架の整備を実施 b 大会議室を学習室として使えるように試行
	③⑦	安心して利用できるよう、施設の点検・修繕を計画的に行います	自動火災報知設備更新工事を実施 電力設備監視装置改修工事を実施 高圧配電盤保護継電器更新工事を実施 非常用発電機点検・整備工事を実施
	③⑧	サービスの水準を高めるのに必要な機能の整備に努めます	a H28年度未実施部分の改修工事を実施 b 授乳室の整備計画策定
(5) 効果的な広報活動	③⑨	スマートフォン対応のホームページを整備します	次期図書館電算システム用スマートフォン対応ホームページの仕様を作成
	④⑩	ホームページに子どもの読書活動を支援するページを設置します	子どもの読書支援のページに、おはなし会で活用できるわらべ歌、手遊びの本のリスト等を掲載するページを順次拡充
	④⑪	他機関と連携して互いの行催事の情報発信します	a 市町村立図書館等と連携した広報の実施 b 他機関と連携してイベント開催についての情報共有を進め、情報発信を実施

平成29年度 達成状況	評価	平成30年度事業計画 事業計画
a 6月に、館内研修のプログラムや手順を規定した図書館研修実施要綱を策定した。 b 上記図書館研修実施要綱に基づき、グループワークなど参加型研修手法を積極的に導入した図書館研修を8回実施した。	B	県政の課題解決を担う図書館職員を育成するため策定した図書館研修実施要綱に基づき、グループワークなど参加型研修手法を積極的に導入した研修を実施
a 博物館明治村、県健康福祉部等との連携を進め、H30年度のイベントの準備を完了した。(㉔再掲) また、特徴的コレクションを構築するため、資料収集方針を改正した。 b 広報チームでイベントを計画するPT全体の進捗を管理・スケジュールリングし、策定した広報計画に基づきの平成30年度のイベントカレンダーを作成、メールマガジン等も活用して広報を実施した。 c 図書館研修実施要綱に基づき、グループワークなど参加型研修手法を積極的に導入した図書館研修を8回実施した。(㉓再掲)	B	a 運営方針後半5年の行動計画を策定 b 4つの集客PTにより他機関・団体と連携して企画展示を実施するとともに、効果的なPRを実施 c 図書館研修実施要綱に基づき、グループワークなど参加型研修手法を積極的に導入した研修を実施(㉓再掲)
a 地域のボーナデジタル資料の収集、所蔵資料の自館でのデジタル撮影等を中心にH30年度以降の整備計画を策定した。 b 1階エントランスを、企画展示の実施やグループ学習スペースの提供、関係機関と連携してセミナーやワークショップなどを開催し、利用者相互の交流の場として活用するためリニューアルした。(愛称：Yotteko(ヨッテコ)) c 1階エントランス、Yotteko(ヨッテコ)のリニューアル記念イベントとして、NP0くらしとバイオプラザ21と連携してバイオ・カフェを、中京テレビと連携しラップコンサート「あなたの“愛”をラップで伝えてみよう！」を開催した。(㉔再掲)	C	a H29年度策定した計画に基づき、県及び市町村の地域資料の刊行状況調査に合わせ、資料のボーナデジタル化の状況調査を実施。県関係のボーナデジタル資料は調査時に紙への媒体変換等による収集を実施 また、地域資料の自館撮影によるデジタル化についての試行を継続(㉑a後段参照) b 「明治150年」に関する企画展示を博物館明治村と、健康講座を県健康福祉部と連携して実施 他機関や団体等と連携しYottekoにおいてカフェ形式の講演会やワークショップを実施(年4回以上)(㉔再掲)
a クリエイティブ・ゾーン(愛称：Yotteko(ヨッテコ))整備事業として利用者用机・椅子・書架の整備を3月に完了した。 b 大会議室を学習室として試行開放した。10月～2月の延べ9日間開催し、利用者は451人(平均50人/日)であった。	C	a 引き続きYottekoの机・椅子等の什器類、広報用のディスプレイ等の整備を実施 b 昨年度の試行を踏まえ、大会議室の学習室開放を実施
電力設備監視装置改修工事と高圧配電盤保護継電器更新工事については2月にそれぞれ改修と更新を完了し、自動火災報知設備更新工事については3月に更新を完了した。	C	非常用自家発電設備修繕工事、冷温水発生機電装部品・燃焼装置修繕工事、5階大会議室AVシステム修繕工事及び5階レストラン厨房等・小中会議室・研修室エアコン設備修繕工事を実施
a H28年度から継続して実施していた地下2階下層の電動集密書架改修工事が完了した。 b 授乳室の整備計画策定については検討に留まった。	D	a 電動集密書架増設計画の策定 b 授乳室の整備計画の策定
次期システムのリースが一年延長となり、延長終了後のシステム更新時に図書館用スマートフォン対応ホームページをあわせて更新することとなったので、H29年度は検討に留まった。	C	次期図書館電算システムの更新に向け、情報環境の変化を踏まえたスマートフォン対応ホームページ仕様を作成
児童図書室子どもの読書支援のページに、子どもと本をつなぐ人々たちへの参考図書として、「手遊び わらべうた ことば遊び 小道具」のブックリストを新たに掲載した。当館あかちゃん向けおはなし会サポーターは、実演の際、このリスト掲載の図書を参考にし、役立てた。	C	子どもの読書支援のホームページに、読みきかせボランティアの参考になる紙芝居のテーマ別リスト、あかちゃん向けおすすめ絵本のブックリストを順次掲載
a 県内図書館共通イベント@ライブラリーは、県図書館及び県内市町村立図書館68館において、「ものづくり王国あいち」を16館で20イベントを、「ウインタースポーツ」を20館で23イベントを実施した。また、愛知県図書館ホームページ内に、県内図書館の中高生向けコーナーを紹介する「ティーンズリンク」を開設し、44館の参加を得た。(㉑後段再掲) b Yottekoのリニューアル記念イベントとして、バイオ・カフェ、「あなたの“愛”をラップで伝えてみよう！」を開催に当たりNP0くらしとバイオプラザ21、中京テレビ等と連携し情報発信を実施した。	B	a 県内図書館の共通イベント「@ライブラリー」参加拡大の働きかけを実施。県内図書館の中高生向けコーナー紹介ページ「ティーンズリンク」参加館の拡大(㉑後段再掲) b 「学びネットあいち」(愛知県生涯学習推進センター)や「AELネット」(愛知県環境学習施設等連絡協議会)等と共同して情報発信を実施